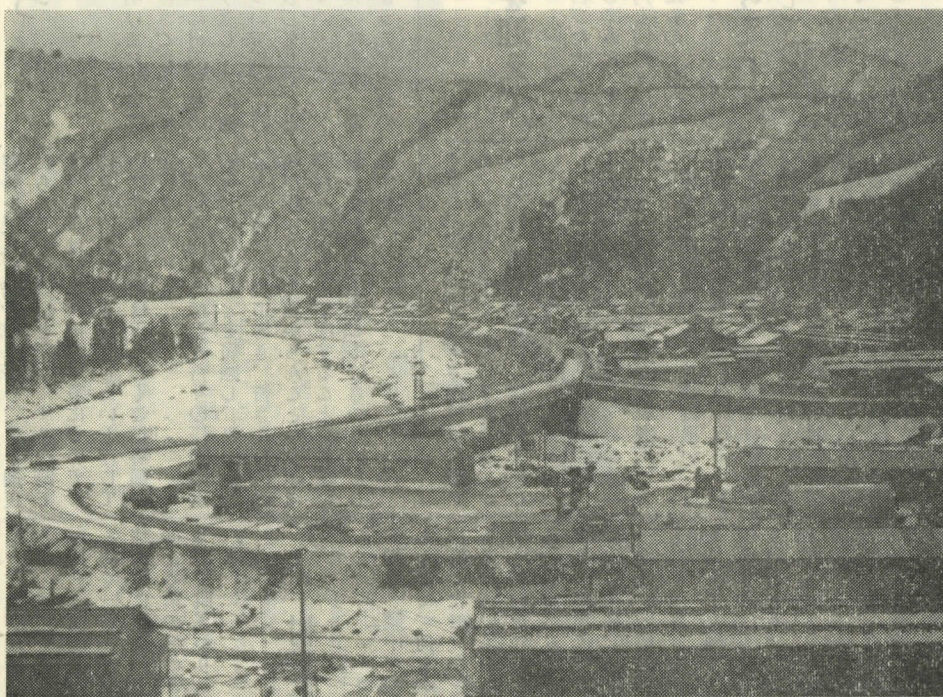


# あけましておめでとう



発行所  
福井県大野郡  
和泉村

(昭和41年12月1日現在)

村の人口	
出生	5人
死亡	4人
転入	33人
転出	57人
総人口	3,859人
男	2,044人
女	1,815人
世帯数	1,183世帯

村の面積  
332.26平方km

## 今月の目標

- お正月は一家団らんの中に過しましょう
- 一年の計は元日にあり、お正月は一家揃って今年の計画を作りましょう
- お正月に甘んじての暴飲暴食は慎みましょう

## 年頭の辞

和泉村長 杉本又助



皆さん明けましてお芽出とうございませぬ。

昨年本村の合併十周年の記念式典が挙行されましたが、この事は私が十年もの間皆さんにお世話になったことになりました。ここに改めて厚くお礼を申し上げます。

私の今の三期目の任期も前半二年を終り、拙い十年の足跡を後半二年に総仕上げをすることが私に課せられた責務であると痛感致しております。

以前、私は、ダム

問題、災害復旧問題、鉄道問題、これ三つが和泉村の三大目標であるとして皆さん方のご協力を要請致しましたが私の十年の足跡は、要するにこの三つの問題が中心でございました。従って私に課せられた総仕上げの課題もこれ三つが主題であることに間違いはございません。ただダム問題が補償の段階を終って和泉村の再建の段階に入り、災害復旧は三カ年連続したものは一応完成して四十年災に中心が移り、鉄道問題は誘致要請の段階から早期完成を要請する過程に入ったという訳であります。

鉄道については、昨暮に下山地区の用地買収の調印も終り、今年はいよいよ和泉村内に工事が始まります。どうか地係り地元の方々のご協力下さいますようお願い申し上げます。

次に本村の再建計画については、再建方策審議会に於いて各部門毎の立案は出来たようであり、この答申を尊重して現実具体的に参りたいと思っております。その部門とは、既にご承知かと思いますが、概括して

- 一、農業部門
- 二、林業部門
- 三、地下資源部門

○山高きが故にとうとからず

四、観光部門  
の四つに考えられるものでありまして観光も亦産業の一つであると考えると、右四つとは要するに、和泉村の生産性を如何に伸ばすかという一点に絞られるものであり、如何にしたならば和泉村の生産力を高めることができるかということであり、和泉村の再建は要するに、和泉村の生産を高めるにあるとすれば、そこに当然起ってくる問題は、生産に不可欠の労働力の問題であります。如何に行政上の配慮がなされたとしても労働力―即ち人―が足りなくては何事も成就するものではないと思いません。従来ともすれば電源開発は移住が解決の焦点の如く考えられて参ります。然しながら私が今、村民各位に訴えたいことは、人が居ない所に再建はないということであり、自立な村造りということも、そこに居住して働く人があってこそ実を結ぶものなのであります。子々孫々まで和泉村に居を構えて働く意欲に満ちた村民―この方々によってこそ和泉村の再建が成るものであります。

鉄道といい、道路というも皆和泉村の生産ということに附随するものであります。人は、各々職場によって適不適があり、厳密に言えば十人十色であります。先述した大別四つの部門のうち自分の能力と照合して、どの部門でどのように働きたいかをご判断願って、どの部門でどのような行政措置を望まれるかをご遠慮なくお聞かせ願いたいと思っております。和泉村の再建につき―新しい村造りについて大いに村民各位の公論のより上りを提唱致します。

### ごあいさつ

議長 宇野 一雄



明けまして御芽出度うございます。昨年村議選挙のやり直し、その他について皆さん方に色々ご迷惑をおかけ致しましたことを深くお詫び申し上げます。さて新しい年を迎えるに当り、過去の失態を繰り返さぬよう先ず己の



### 羊 年を迎えて

年の始めの学問に、古びた大字典をめぐって、羊の項を探してみた。羊という字は象形文字で、角と四足と尾を示す羊の姿をかたどったものとかいてある。

### Mはづの工は、四つ足一はじつぽをあらわしている

性質はおとなしく、すなおでいつもむらがり集って生活している。犬のように集まればすぐけんかや争いをする輩のたぐいとはちがう。こうした温順な性質にふさわしく体の毛もふさふさとやわらかい。ものたとえに「羊の毛のような」と肌ざわりのよさをいいあらわしている。

とげとげしい今日この頃の生活に十二年に一度ぐらいは、ほのぼのとしたぬくみをもつ年もあつてよい。長野のつけ替え道路ののり止めに、風が吹けば大波小波のように打ちなび

姿勢を正し自戒自粛に務め、よき選良たらんことに覚悟を新たにす。本年は特に村再建対策について、皆さん方のお声も拝聴したいと存じています。その節はよろしくご指導願ひ上げます。

新年を迎えるに当り吾々の任務の重責且つ大なることを痛感し、当面の問題を早急に実現に導き、皆さん方にお喜び頂ける日の速からんことを念頭に議員一同全力を傾注することを誓ひ致しまして年頭のごあいさつといたします。

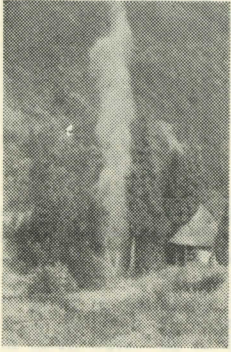
く草を、バスのガイドさんはつぶやいた。「すすり泣く、恋のささやき、ひつじ草」。騒音と雑音に神経がまひし

### 越美北線

#### 下山附近予備測量進む

越美北線延長工事の予備測量が、日本物理探鉱株式会社で行なわれていることについては、十一月号でお知らせしましたが、この測量で定められた測点にもとずき、爆破反応地盤検査が初められた。

この作業は、爆破した時の振動の時間や、トンネル入口附近のセンターボーリングにより、地盤の軟弱を調査します。(地盤検査による爆破の一瞬)



### ○ 愛屋鳥に及ぶ

そんな工事現場に、やさしいひつじ草とは、電発さんの心づかいがうれしい。持穴の白馬洞から出た駒が「天馬空を翔く」という威勢のいい四十一一年を精神的に見送って、迎えた年をみんな仲よく羊の毛のようにあたたかみをもつて、肌ざわりよろしく暮して行きたい。

### 村議の顔

#### 吉村 外治

趣味 戦中、戦後に青春時代を過ごした私で、何もかも制約を受けた時代に育ったせい、味も臭いもない男である。強いていうならば、自動車と、少々碁石をいじくる程度のもので、飲み物も食べものもこれと好き嫌いはなく、酒類にいたっては全くの不丁宝で時に礼を欠く時もあるかも知れない抱負 一口にいうならば当地に財産もなく、さりとてき程商才にもたけていないこの私が、明日に何の心配もなく過せる楽土に行きたい。私がそうなることは村民等しそうでなければならぬ。それには先ず、ダムによる村民、戸数の半減、更に耕地の荒廃減少、続いて国鉄の開通等、激変しつつある将来を、段階的に調査研究し、村内及び村民全体の実態を把握して適切な経営(農業、林業、商業、工業等の経営)指導を行うべく施策を講ずるべきであろうと信ずる。その一つに豊富に埋没されている石灰石の開発のためのセメント工場の誘致がある。国鉄の開通と、国道の整備によって今迄以上に開発の可能性が出て来た。これによつて耕地の少なくなった余剰労力を吸収する。更に地下資源広域調査指定の

ボーリングが予定されている中から武生に向って広がる大飯脈等、一連の地下資源の開発も地域住民に直接、間接の利益を与える事少くないので、これらの開発には積極的に施策を講ずべきである。

次に全くの未知数である観光産業の開発がある。まさに専門家によってなされた観光診断の結果も報告書として届いて居り、委員会において細部にわたつて検討して、明年を初年度として数年間にわたり実現可能なものより順次実施して行くよう答申している。これは新規開拓の分野で、ほう大な資金が伴うもので、一人和泉村がなし得られるものでなく、大資本の導入こそ欠くべからざるものである。

大資本の導入の糸口をつくるのは村の施策如何にあつて、例えば、用地の確保をするとか、或は温泉の発掘をするとか、若し温泉が出ないにしても、地下に掘下げず地上に沸湯設備を施して豊富に供給出来る湯をつくることが出来れば、ここに何ら温泉と変わることがないのである。更にスキー場の建設等、国鉄の開通、国道の整備によつてこうした四季を楽しめる一大観光地として、観光診断報告書にも有望なることがうたつてある。観光産業は一朝一夕にしてなし得られるものでないにしても、交通が確保され、徐々に内容が充実されて、PRが行き届くならば何にも勝る産業である。こうして観光産業の発展に伴い観光物産事業も又欠くべからざるものとなつて、必然的に家庭内職ないしは家庭工業的な収入も得られる様になつて来るものと思われ更に男女共に働らく職場も大きく門戸が開かれ直接、間接的な収入は一層

### 恐ろしい飲酒運転

冬季を迎え特に注意を願ひたいこと、寒い吹雪の晩などは飲酒運転の恐ろしさを知らながら、つい一パイ。くれぐれも御注意!

二、雪で道路がせまくなりスリップし勝ち速度制限、駐車注意、安全運転。

三、精神の安定  
事故の多くは技術より不注意。不注意の多くは精神の不安定。精神の安定の多くは家庭の平和にあり。

車を運転する人も 歩く人も 気持よく送り出す 平和な家庭

四、歩行者の注意  
雪道は自分の足も、自動車もすべる自分の動きはにぶり、自動車は速い一秒間に人は一米、車は百米

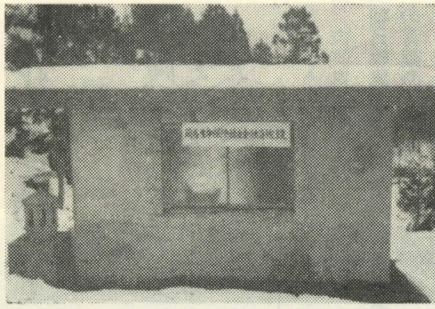
五、一月より十月までの大野警察管内  
死者 二六九件  
死者 一六名  
傷者 一六九名

和泉村交通対策協議会より



### 簡易水道なる

村内全世帯に対する水道施設による給水計画は、合併当時より計画されていましたが、いよいよ実現の運びとなり、昨年度は朝日、貝皿、川合、板倉角野地区の簡易水道施設が、国庫補助金、簡易生命積立金融資産を財源として着工され、本年度に入り給水を開始し前坂、下山地区についても国庫補助金国民年金特別融資を財源として着工、その殆んどを完成し近く給水開始の段階であり、伊月、下大納地区については、既に業者との請負契約も終り一部着工されましたが、突然の降雪により工期延長の止むなきに至り、年内給水は困難な状態となりましたが、業者を督促し年度内完成を期しております。



(完成した水道施設)

これが完成しますと、以前施行済みの後野、上大納地区を含め全世帯に、水道施設による完全給水が実現することになり、伝染病発生率の低下、消化器系病の減少、また消火栓利用による初期消火等、火災予防や保健衛生に及ぼす効果が期待できます。

### 給水についてお願い

- 一、冬季間は戸外の引込管を藁等で囲い凍結しないようにして下さい。
- 二、使用しないときは、給水口を閉じて水を節約して下さい。(非常の場合合水不足によって消火栓等が、使用できないことがある)
- 三、減給給水のため魚類に流水しないようにして下さい。



### 「家庭教育」紙上座談会

#### (3) 心のつながり

司会 前回のお話から考えますと、親と子のつながり方「心のつながり」ということになりましたが、どなたか北岡 私はこの間こんな話を聞きました。

戦前は「子どもの心を親がひきつけるやり方だった」。親の思うとおりに子どもの心を動かさせ、親のいつけを守った時は「はめ」守らなかつたら「叱る」という「きびしい」父母中心

### 和泉村再建計画のうごき(1)

電源開発事業の完成と共に、結果的に人口の過半数を失い多くの土地を消耗した本村の今後の村造りについてはかねて当局の腐心していたところで、一昨四十年一月八日を以て「和泉村再建方策審議会設置条例」を設け、続いて昨年一月十六日全審議会規約により四委員会(林業振興、地下資源開発、農業振興、観光開発)を設定し、夫々の委員会を村長諮問事項について鋭意研究を続けて来たが、この程一部その答申が提出されたので本紙を通じ逐次その内容を紹介することとしたい。

のつながりであったが、戦後、教育の考え方が変わって「私はもうとても子供をひきつける力がない」という自信をなくした親、また「親の心に引きつけるよりは、子どもの心にとびこんで行くべきだ」という大人から子供を手放した親、その結果甘やかしゃ、我がままのままの気配が見えてきた。学校でも家庭でも、今の子供は昔とはちがうんだと、むやみに子どもに遠慮したり、子どものいいなりになって、子供に対する大人の責任が、あいまいになってきた。こうしたところに非行化不良化のすまきがあるんだ。

子どもの心の中にとびこんでいくことも大変大切である。だが「とびこみつきり」になってしまつと、甘えっ子気ままっ子にたててしまふ。きびしさは戦前の教育を受けた親に多く、甘やかしさは戦後の教育を受けた若親に多い。しかしどちらにかたよつてもいけ

ない。両方をうまくみ合わせ、子どもも年令や、成長の段階にに応じて、子どもをながい目で見守り育てることが大事だと。しかし、この二つの面をもつにはどうしたらよいか、まだはつきりわかりませんが……

司会 そうです。たしかに戦前戦後をくらべて見ますと、子どもに対する親の考え方が変わったようです。これからの子供をもつ親の心がけとして親の勉強が必要になってくるわけです。きょうは、大変よいお話し合いができてうれしく思います。

### 新有権者の一人として

昭和四十二年のすばらしい夜明けを迎えるときに、私は満二十才となり第二の人生にむかってまさに果立たんとしている。新たに選挙権も与えられどうやら大人の社会の片すみに仲間入りできそうだ。

井の中の蛙同然の私であるが、国會議員、県會議員等が毎日のように新聞紙上を汚職問題でにぎわしているのは、蛙でさえこの問題を知り憎悪の念をいだかずにはいられない。

このように国民として恥ずべき問題を考えていると、あの慎重公正で新鮮なスポーツの社会を思いださずにはいられない。

礼儀で始まり礼儀で終る試合、勝った者には賞讃の拍手を、負けた者には健闘をたたえおしめない拍手を送る大観衆。勝った者は抱きあつて喜び、負けた者はくちびるをかみしめくやしさを涙をこらえている選手達。始めから終

りまで私達を感激の渦の中に巻きこんでしまふあのスポーツに政治をたえてみると、議会とは試合であり、議員達は選手であり、私たちが有権者一人一人はあの大観衆にたとえられると思う。スポーツは選手達がルールを守り一生懸命やっつてはじめて私達が拍手を送るのである。

政治にもこれと同じ規則があり、選挙の時などは、非常にやかましく規則を守るように言っているにもかかわらず、違反者が続出し、こうして選ばれた代表者の中には良心的でない者が選ばれているのは当然のことであろう。

なぜこのように違反者がでるのだろうか、私なりに解釈してみよう。

今年、総選挙や統一地方選挙があるが「〇〇氏は金があるから当選するだろう。△△氏は人格者だが金がないから無理だろう」と世間の人々はうわさしている。また結果はそのとおりになるだろうと選挙経験のない僕達さえ思っているのはどういふわけであろう。

現在の選挙は金のあるものが当選する。これが選挙の常識とされているのだから、明るい選挙だ、いや正しい選挙だとさげんでもその実現は無理だろう。

ある本で読んだことだが、小学校で学級長の選挙をしたところ、立候補した人達がキャラメルをやるから僕に投票してくれとキャラメルをくばつたそうである。このように小学生でさえ、買収しなければという考えを早やもっているのだから、日本の選挙は良くならずが、これは大きくは教育事態にも問題が(四面につづく)

○ 徳孤ならず必ず隣あり

# 文化財を訪ねて



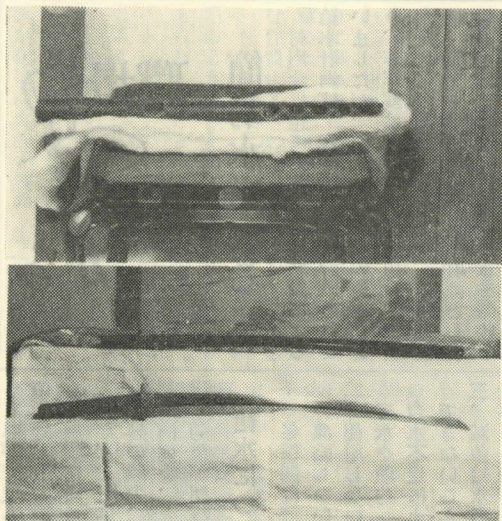
今月より和泉村に伝わる由緒ある宝物、古文書等を訪ねて見る。

「朝日牧雄氏宅に伝わる、悪源太義平の青葉の笛と太刀」

今を去る七百年前、平治の乱に破れた義平が二年余り本村に忍居し村を去る時、朝日家に遺言して残したものである。

その義平とは如何なる人物であったのか。義朝の子頼朝の兄であるが、平治物語の一節をとって其の蛮勇ぶりをうかがって見たい。

重盛いよいよ勇みて大庭のむくの木の



義平の青葉の笛(上)と太刀(下)

下まで攻めつけたり。義朝之を見て「悪源太は無きか信頼という大臆病人が待賢門を打破られつるぞや。あれ追出せ」と呼ばわりければ、悪源太義平「承り候う」とて駆出でたり。続く兵には鎌田兵衛、後藤兵衛、佐々木源三波多野次郎、三浦荒次郎、須藤刑部、齋藤別当、岡部六弥太、猪俣小兵六、熊谷次郎、平山武者所、金子十郎……以上十七騎、くつばみを並べて駆向う悪源太義平、大音声を上げて「此の手の大将は誰人ぞ名乗れ聞かん。斯く申すは清和天皇九代の後裔、左馬頭(さまのかみ)義朝の嫡子鎌倉の悪源太義平、生年十五才の初陣より度々の合戦に一度も不覚の名を取らず、年積りて十九才見参せん」とて五百騎の真中へ割って入り、西より東へ追まくり北より南へ追廻し、縦横横様十文字に敵をさつとけちらして「端武者どもには目なかけそ。大將軍を組んで討て」という大庭のむくの木を中に立て、左近の桜右近の橘のあたりを七八度追廻して組まん組まんともみたりける十七騎に駆立てられて平家の五百騎かなわじと引退く。

かくも奮戦したにもかかわらず戦利利あらず義朝とともに美濃にのがれ義平単身穴馬に來たのである。それにしても十九才の蛮勇青年武者が笛をこよなく愛し敗戦の中にもは

なまず、へき遠の此の村に残せしを思うとき、心豊かなものがあるではないか。

## 部落だより

### 記念碑建立

電源開発のため移住した荷暮部落では、道場跡に記念碑を建立し、このほど除幕式が行なわれた。二十三戸の人々が、やがては荒野と化する部落の名残りを後世に伝えようと共同建立した碑には三島助左エ門外二十二戸の名と歌がさざまれている。

いくとせか住みし古里さきりて行く九ヶの名残りをのちにとどめん  
(名残りの記念碑)



## 文部省 下山婦人学級

さきに、文部省委嘱婦人学級として決定を受けている下山婦人学級では、

冬期の学習計画について毎月三回、土曜又は日曜の夜三時間、道徳法話、家庭教育、村政、正しく明るい選挙、生徒を講師の都合上毎月最初の学級日にかきめることにしました。

文部省委嘱婦人学級とは、国が市町村の教育委員会に委嘱して行う事業で今年度、下山婦人学級が決定を受け、昨年七月から実施しているものです。

## ○ 人を以つて言を廃せず

アメリカのエマソンは「婦徳の消長によつてその国の文化を知ることができるといっているが、それ程婦人の教養は大切であります。次第を担う子供の母として、大衆の場において、健康と明知を修得し、社会からも、子供からももつとも信頼される母となつてほしいものであります。

## 人のうごき

### 【出生】

- 大谷 美濃島隆広 大助長男
- 朝日 挺屋 和恵 美代志長女
- 貝皿 山本 瑞恵 清一長女
- 朝日 山田 浩司 浩一長男
- 大谷 若山登史佳 大吉長女
- 上大納 小山 敏幸 敏次二男
- 上大納 高木 直樹 博之長男
- 上大納 寺山 実 三郎二男

### 【婚姻】

- 朝日 武生市五分市町 朝日 邦子
- 坂井郡芦原町 鳥山 英雄
- 後野 加賀谷早苗
- 朝日 川尻 春江
- 朝日 田中 武男
- 朝日 中山たつゑ
- 下半原 佐々木 弘
- 名古屋市西区那古野町 米村 とみ
- 大野市荻ヶ野 清水 一英
- 上大納 石丸 順子
- 上大納 井上 正猛

### 【死亡】

- 鹿島 長内 久三 三才
- 三合 桜川 はつ 七〇才

(三面よりつづく)

義務教育時代からすでに、選挙とはこういう方法で行われようとするのが選挙で、買収などするのは選挙ではないという考えを根強く植えつけるような教育が必要であると考える。そういう考えが常識化すれば、明るく正しい選挙が行なわれるのもそう遠くはないだろう。

私も新有権者の一人として、明るい選挙が行なわれる日を待ちながら、世論の考えに左右されず、また安易な考えでは決して投票しないということ念頭に置きこれからの選挙に望みたいと思ひます。

### 訂正

本報十二月一日発行「人のうごき」婚姻欄中の誤りを次のとおり訂正します。

- 誤 (十二月号) 三方郡三方町 河村 裕子
- 朝日 中山 正
- 正 三方郡三方町 河村 裕子
- 中山 正治

## あとがき

明けましておめでとうございます。新年を迎え編集子一同更にその使命の重大さを自覚し、皆々様のご支援のもとに、一段の躍進を期しています。今年もよろしくお願ひします。